

藤原総合文化会館検討専門部会会議録

件名	第3回藤原総合文化会館検討専門部会		
日時	令和元年7月29日(月) 14:00~15:15	作成日	令和元年8月5日
場所	藤原行政センター(藤原公民館)会議室	記録者	資産経営課 星
出席者			
<日光市> 上中副市長 小林資産経営課長 星公共施設マネジメント係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			
<p>■配布資料 第3回藤原総合文化会館検討専門部会 次第、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、第2回会議議事録</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 部会長あいさつ</p> <p>皆さんこんにちは。本日は第3回の藤原総合文化会館検討専門部会にお忙しい中出席いただきありがとうございます。前回6月26日第2回の会議の際に会議の進め方についての御意見をいただきまして、改めて、事務局と相談をいたしまして、本日第3回目になります。改めて専門部会の進め方について確認をさせていただきながら、進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>3. 説明事項</p> <p>部会長</p> <p>それでは、部会長として議長を務めさせていただきますが、まず現在出席をいただいております部会員の数は、12名で、定足数に達しており会議は成立いたします。</p> <p>議事に入る前に、本日、傍聴の申出がありましたので、これを許可したいと思います。意見はございますか。</p> <p>～「異議なし」の声あり～</p> <p>ありがとうございます。それでは傍聴を認めたいと思います。</p> <p>(1) 公共施設マネジメントに係る検討体制について</p> <p>(2) 専門部会の進め方について</p> <p>(3) 総合文化会館跡地利用に対する市の考え方について</p> <p>部会長</p> <p>それでは、これより会議次第に基づき説明事項に入ります。説明事項3つございますが、あわせて事務局より説明をお願いします。まず、(1)藤原総合文化会館についての方向性について事務局より説明願ひます。</p> <p>事務局</p> <p>まず、資料の説明に入ります前に、前回の会議では、この専門部会の目的や会議の進め方などについての説明が不足していたために、皆さまにご迷惑と混乱を生じさせる結果となってしまったことにつき</p>			

議事内容

まして、改めてお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

前回の会議で皆さまからいただいたご意見等を踏まえ、特に、会館を廃止すること自体に賛同しかねるというご意見もございましたことから、本日の会議では、仕切り直しといたしますか、まずは、改めて、全体を再度整理させていただき、最後に市の考え方をご説明させていただきたいと思っております。

お手元に配布させていただいております次第では、説明事項として3点、分けて記載をしてございますが、一括して説明させていただき、最後に、まとめてご質問やご意見を頂戴したいと思っております。

それでは、資料1をご覧ください。

まずは、検討体制についてですが、この専門部会の位置づけ及び役割について、ご説明いたします。

公共施設マネジメント全体に係る検討体制としては、市役所庁内の検討組織と公共施設適正化推進市民委員会を中心とした市民の検討組織の大きく二つの検討体制がございます。こちらの専門部会は、具体的な施設、つまり藤原総合文化会館について検討する会議として市民委員会に属する形で設置をしてございます。

そして、下段の事業化に向けたプロセスという部分ですが、現在の藤原総合文化会館を廃止することや廃止とした場合の跡地利用について、市長に対し、提言していただくこととなります。市では、皆さまから提言のあった内容を尊重し、市民委員会と意見交換をしながら、改めて検討し、市としての意思決定をしてまいりたいと考えております。

次に資料2をご覧ください。

こちらは、専門部会の進め方といたしますか、専門部会で検討する内容等を全体的にお示ししたものととなります。

市としては、日光市の人口規模や財政規模、さらには利用状況等から、今市、日光、藤原の3館を現状のまま維持していくことは、不可能であるという大前提のもと、3館の耐震化の状況や老朽化の程度、さらには利用率等を考慮し、まずは、日光と藤原の会館を廃止し、その後、日光市としての会館について、検討していくことといたしました。

特に、藤原総合文化会館についてお話いたしますと、10パーセント台という利用率の低さもさることながら、IS値0.4という低い耐震性や老朽化の程度を踏まえると、利用者の安全性を重視し、できるだけ早期に廃止し、解体した上で、その跡地に鬼怒川温泉の玄関口としての賑わいが創出できるような施設を新たに整備する方向を検討すべきではないかと考えております。そして、整備に当たっては、市が直接実施する直営方式も考えられますが、市の厳しい財政状況に鑑みれば、イニシャルコストやランニングコストがかかる施設整備は困難であり、平面の駐車場や広場程度の小規模施設に限定されてしまうと捉えています。そこで、民間の持つノウハウや資金を活用し、駅前の賑わい創出にふさわしい施設を整備することが可能になると判断し、民間企業による参入の可能性を探るためのサウンディング可能性調査を実施したところです。

資料3をご覧ください。

こちらは、事業手法について、メリット等を整理したものととなります。

事業手法は、大きく3つに区分できます。一つが、市が直営で実施する方法。もう一つが、市が一切関与せず、すべて民間企業が実施する方法。さらに、それぞれの特徴を連携させることでお互いのデメリットを解消させる公民連携の3つの手法となります。

もう少し具体的にお話いたしますと、直営方式のデメリットである、財政負担の大きさや斬新なアイデアなどが出にくいという部分を民間資金や民間のノウハウを活用することで解消し、民営方式による行政がコントロールできない、不採算性による撤退などのデメリットを市の信用性等を担保に、一定のコントロールをすることで、民営方式のデメリットを解消することができる手法が公民連携というこ

議事内容

とになります。

欄外のところにも記載がございますが、公民連携とは、事業内容から施設整備、運営等まで、市が一切関与することなくすべてを民間にまかせてしまうものではなく、行政と民間がお互いにメリットのある方法を協議・調整しながら事業を展開していく手法であり、行政はもとより地域の皆さまが望まない施設を勝手に作ってしまうということはありません。

次に資料4をご覧ください。

こちらは、藤原総合文化会館について実施したサウンディング市場型調査を一覧表に整理したのになります。公民連携という手法を使った場合、つまり、行政のコントロールのもと、民間企業の資金やノウハウ等を活用して実施できる可能性があるものを民間企業に提案していただいたのになります。したがって、現時点で、市として、これらを実施すると決めたわけではありませんし、当然に、実施する事業者が決定したわけでもございません。あくまでも、民間目線で公民連携が可能な提案と捉えてください。少し具体的にお話しいたしますと、上から、駐車場と広場については、施設の規模や形状によっては公民連携ではなく直営で実施することも可能であると捉えています。次の観光情報センターは、民間企業から提案を受ける前提として、駅前に必要な施設として設置することを市が条件として示したもので、何らかの形で、整備する必要があると捉えているところです。次の店舗、商業施設やビジネスホテルについては、鬼怒川温泉という観光地の中に市として整備すべきかという点では、周辺施設との兼ね合いもあることから、市が積極的に推し進めるものではないと捉えております。特に、ビジネスホテルについては、ホテルや旅館が数多いこの地域にはふさわしいものではないと考えております。また、図書館と公衆トイレにつきましては、現在の総合文化会館に併設されているものではありませんが、敷地の一体利用という点で、必要に応じて複合施設化することが可能な施設として提案があったものです。

最後に、資料5をご覧ください。

藤原総合文化会館を廃止し、解体することとした場合、これまでお話ししてきた内容を市の考え方として、整理いたしました。

まず、市の厳しい財政状況に鑑みれば、コストのかかる施設を直営で整備することは、困難でございます。とはいうものの、観光情報センターの機能を含め、鬼怒川温泉の玄関口である駅前の賑わい創出は必要不可欠と捉えております。直営で整備することが不可能な施設であっても、公民連携の手法を使うことにより可能性が出てくることから、サウンディングの結果を参考としながら、皆さまのご意見を踏まえ、整備内容を検討してまいりたいと考えております。

前回の会議の中で、会館を廃止すること自体に賛同しかねるというご意見もございました。また、組合や協会などそれぞれの団体を代表してきている立場から、何を整備してすべきかと問われてすぐに意見を出せるものではないし、そんなに簡単なものではないという趣旨のご意見もございました。

そこで、事務局からのご提案でございますが、本日、ご説明した内容を踏まえたうえで、廃止することとした場合の跡地利用について、それぞれの組合、協会などに持ち帰り、ご議論いただくための時間をづくり、例えば、次回開催を9月末とか、ハイシーズンを考慮して11月末とかに設定し、少し時間を空けて、それまでに各団体等でご検討をいただき、その結果を持ち寄った上で、改めて、この会議で検討を進めるということではいかがでしょうか。なお、それぞれの団体に持ち帰った際に、市がどのように考えているのか、必要に応じてお声かけいただければ、私どもの方で出向いて説明をさせていただきます。その辺も踏まえまして、少しお時間をとってあの駅前の場所にどういった施設を整備していった方がいいのか、鬼怒川温泉の玄関口、顔としてどういった形がふさわしいのかというのをそれぞれ団体のもとで改めて検討いただき、持ち寄って検討いただくという形をとらせていただければというご提案

議事内容

をさせていただきます。説明が長くなり大変恐縮ですが、以上説明とさせていただきます。

部会長

ただいまの説明内容につきまして、ご質問がございましたらお願いいたします。

部会員 1

1枚目の資料、市長が検討を指示する公共施設適正化推進会議等と市民委員会がまた意見交換を行うことになっているが、この組織はどういうものか。

事務局

庁内の公共施設適正化推進会議につきましては、左上にある庁内の一番上に記載の公共施設適正化推進会議というもので、副市長を頭に検討する組織になっている。その中で意見交換をいただく市民委員会というのは、右上に書いてあります庁外のところの公共施設適正化推進市民委員会の方に庁内で検討した中身について提示し、ご意見をいただきながら庁内での意見を固めていきたいというような考え方である。

部会員 2

市民委員会はどれくらいの人数で、どの辺の地域の方が入っているのか。

事務局

全員で6名、各地域から1名ずつプラス公募の方が1名で合計6名ということになっている。すでに今までの公共施設マネジメント全体を議論いただくのに市民委員会の方に入っていて、すでに出来上がっている組織である。

部会員 2

計画策定の時からすでに立ち上がってやっているということか。

事務局

計画をつくる際は、別の委員会を組織していたが、計画が出来上がった後、推進していくために改めて立ち上げた組織である。

部会員 2

最終的には市長が意思を決定して、それを議会にかけてまた更に決めていくということになるのか。

事務局

委員のおっしゃる通り、市長が決定して終わりということではなく、当然議会への説明も行っていき、内容によっては、市長の意思決定よりも前にはなるかと思うが、例えば市にお金がないから民間の資金協力を頂きたいとなった場合にいやいや民間ではできませんよという計画では困ってしまうので、改めて詳細なサウンディング調査とか、そういった必要な手続き等は行ってまいりたいというふうに考えている。少なくとも市長の決定の前には議会にも説明をしていくことになると考えている。

部会員 2

時間をとってということだが、11月とか9月という話があったが、最初にお示しいただいた会議の計画は一旦やめてということで、このあと何回位会議を行うのか。

事務局

当初は4回の会議の設定をさせていただいた。前回の反省点を踏まえまして、スケジュール全体の見直しもさせていただきたい。先ほど例えば9月ですとか11月という話をさせていただいたが、できれば9月末にするとか、11月にというのは、本日皆様のご意見をいただきながら、一旦そこでは

議事内容

切らせていただいて、例えばそこでまとまっている意見だけを持ち寄って、まとまってなければ中間報告というような形になっても致し方ないのかなというふうに思うが、できればそこまでに皆様の方でまとめていただいて、次の議論ができるような形にしていきたいと考えている。後全体で何回くらいかとなると、その会議の中でどれくらい方向性が、例えばそれぞれ皆さん団体の中でこういった意見が出てくるか、まだわからない部分も多々あるかと思えますし、いろんな議論がでてきた中で、簡単にまとめれば、それはそれでいいことだと思うが、まとまらないようであればやはりお時間がかかってしまうのかなということもあるので、少なくとも仮に11月にまとめたものを1回やったらすれば、そのあと最低でも2、3回は必要になってくるのかなと、9月にやったらしても同じ形になるのかなという見込みではいる。後は、どんな意見がまとまった形で出てくるのか次第かなと考えている。

部会員 3

今日は仕切り直しということで一安心しているが、資料4の観光情報センターの件でお伺いしたいが、平成30年の9月1日に自治会長また観光団体の代表、文化団体の代表の方に説明された際に、出席された方は覚えているかどうかかわからないが、大嶋市長が会議が始まる15分前に観光情報センターの建物を見てきた中で、プロとして耐震はやってある建物であるけれども、今の技術をもってすれば、切って建物を残すことは可能ではあるけれどもあまりにもコストがかかりすぎるので、建て直した方が望ましいという話があったと思うが、今回のサウンディング結果の部分にどうも日光市の意図を感じてならない部分があるが、そこはどうか。

事務局

観光情報センターにつきましては、市の意図という意味では、前提条件で駅前に必要な施設であるということを出させていただいているので、もちろんその部分は意図しているところで、観光情報センターに関してはそういうことである。ただ、店舗・商業施設とかビジネスホテル、こちらにつきましては、あくまでも民間事業者がやる場合に出してきたものなので、市として意図しているものではない。そこは断言させていただきたい。あくまでも民間事業者がやろうとした場合に提案があった中身ということなので、現状として市がこれをやろうとしていることではない。

部会員 3

建物に関してはこれから仕切り直しということで、実際に耐震の方も観光情報センターの方はやってあるし、実際に駅前の立地ということで、あえて建替えしたところに入れなくても今の現状維持もありではないかと考えているし、またここに公衆トイレの件が載っていると思うが、サウンディングの方では、公衆トイレについてはまだ新しいが、施設の統一感を図るため、既存の建物を解体し、一体整備が望ましいと書いてあるが、バリアフリーになっているトイレでランニングコストと書いてあるが、形が見えてなくて統一感を図るためにというのはどうもわからない。その辺はどうか。

事務局

あくまでも民間事業者の提案としては、施設というか敷地を一体的に使った場合に、複合できるのであれば複合して一体的にするという方法もあるのではないかとということであって、委員がおっしゃったように観光情報センターは耐震化をしているので、極論の話として聞いていただきたいが、耐震化されている観光情報センターは残して、それ以外の会館の部分を解体して、例えば駐車場にした場合に、改めて公衆トイレと図書館を入れるために何かをつくるかということとそういうことはない。それは今の既存の公衆トイレとか図書館をそのまま使えるので。例えばそうではなくて、何らかの施設をつくりましようとなった時に今の図書館の敷地とか公衆トイレのある場所とか、観光情報センターの場所がそこもひっくるめて一体的に一つの箱にしたほうがいいのかというものが出来れば一体のものとして整備するという可能性もなくはないと思っているが、それが前提ではないということでご理解願いたい。

部会員 3

今説明していただいたが、今回仕切り直しということなので、安心しているが、皆さんにもわかってほしいと思うのが、トイレは平成21年度に2,868万6千円をかけて作っているもの。ただか10年くらいで40㎡位の建物を2,900万から投資をして、税金で作っている。一般市民の考えで言うと2,900万の住宅ローンを組んだら30年とか35年のローンを組む。ただか10

議事内容

年くらいで建物を統一感を持たせるためだけに壊すというのは市民としても反対だし、バリアフリーがされてないとかいうのであれば、当然新しいものという考え方もあるかもしれないが、何不自由ない立派なトイレ、2,900万かけているトイレをどの業者がサウンディングしたかはわからないが、あまりにも簡単に考えているのかなというふうに思うので、2,900万の重みというのは、10年で壊すというような建物ではないと思うので、今後組合にも諮っていくが、あの建物は残すべきだと思うし、当然観光情報センターの方も耐震をやっているのだから、市長のプロの目でという言葉はあるが、よく調査をして、いくらの耐震化工事をどこの資金で何年計画でやっているものなのかということきちんと出して、そういうところを細かく説明してもらわないとここにきている委員のメンバーも今までの流れだと役所の流れに沿って落とし込まれていくような部分があるのでよくそこは説明責任をきっちり果たしていいものを今後作っていかねばだめなんじゃないかと思う。実際どこからお金が出ているのか。

上中副市長

合併前の藤原町時代に地域再生計画が作られ、それに基づいて駅前一体整備も含めて、足湯や公園、遊歩道など30億規模の事業を行った。その中には廃屋旅館の解体とかそういったものも含めた事業ということで、部会員から話があったように、トイレもその中の一つとして実施した。そういった経緯がある中で、耐用年数もまだ少なからずあるのだらうということになると、無駄な投資をするということは、行政としてもその判断は非常に難しくことになってくると思う。市長が言ったのは、文化会館自体が相当に老朽化し、耐震化もされてなく、あの施設を残すということは難しいということ。仮に残すということになると、建物の危険性を鑑みた場合、使用できなくなるということも想定せざるを得ないため、あの施設はまずは壊させていただきたいということ。そして壊すにあたっては、あの土地は狭い範囲ではあるとはいえ、面的に整備するとしたら、トイレや観光情報センターもひょっとすると一体的に包含して整備することも、一つのアイデアとして、可能性としてはあるのかなという意味で申し上げたことである。それが例えば、経費的な部分でももったいない、耐用年数もそんなに経っていないということであればそこは切り分けて考えることは十分に可能である。あくまでサウンディングは一事業者の理想も含めた可能性としての提案なので、御理解をいただきたい。

部会員 3

私が調べたところによると、地域再生事業費と一般財源ではないというのは確認しているところだが、またそこは調べていきたい。

上中副市長

地域再生計画なので、国の交付金が間違いなく入っている。1/2程度だと思う。それと市が地方債という借金をして、それも合わせての財源構成となっている。実際国の補助金を使って整備をすると補助金適正化法の決まりがあって10年間はほかの使途に転用できない、もしくは壊すとするとその分の残存価額部分を返還しなければいけないといったことも生じるので、一番無駄のない方法を選択していければと考えている。

部会員 4

一点確認したい。当協会としてこの後総会を予定しており、先ほどの説明の中で、必要があれば説明に来てもらえるということであったが、会長に報告と確認をする際にそういった話をしたいと考えている。来ていただいた際に説明していただくのは資料5の市の考え方を説明したうえで、ディスカッションではないが、意見交換みたいなことができるかと捉えてよろしいか。

事務局

例えば、本日お示しした資料だと資料5ということではなくて、それに至るまでの本日お示しした全体的な中身につきまして改めて資料は用意させていただくが、それに基づいて説明はさせていただきたい。各団体の中でどういった議論になっていくかということがあろうかと思うが、説明だけだとわからないこともあろうかと思うので、当然議論がされる場に私たちがいて必要に応じて質疑には答えたいというふうに考えている。

部会員 2

議事内容

資料2 専門部会の進め方の中で文化会館は廃止となっている。マネジメント計画の中では、集約化・統合みたいな表現だったかと思うが、廃止とどう違うのか。

事務局

廃止という言葉を使わせていただいたのは、マネジメント実行計画の中で文化会館についてはモデル事業という位置付けになっている。今日の説明の中でも触れたが、日光・藤原につきましてステップ1として廃止、ステップ2として全体を考えていきたいと思いますという方針を市として出したということもあり言葉としては、廃止という言葉を使わせてもらった。特に他意があるとかそういうことはない。マネジメント計画全体の中で集約とか統合という言葉を使っているところではあるが、厳密な言い方をすれば、2つ3つの施設を1つの箱の中に機能を入れて集約・統合していきましょと、統合された施設は廃止をしていきましょというようなイメージでとらえていただければと思う。

部会員2

先ほど副市長から更地にしてという話があったが、そもそも残してほしいという人と取り壊しはやむを得ないという人とそれぞれいると思うが、11月に住民説明会があったか。その辺の議事録を見ると廃止するにしても更地にした後に皆さんに計画を説明するのは納得いかないと。更地にする前にきちんとある程度のところをみんなに説明してほしいという話が出ていたがどうなのか。更地にしてから説明するのか。そこは丁寧にやるべきだと思うが。

事務局

今後皆さんに持ち帰っていただいて、検討の中身次第にもなろうかと思うが、中身次第というとし語弊があるかもしれないが、今まで総合文化会館が担っていた機能があるはずと思っている。その機能をどういった形で残していけるのか、残すものがどういうものなのかという議論もあろうかと思うが、そういったところを今後どう議論できていけるのかというのが1つ。後は先ほど副市長の方から話があったが、Is値0.4というのをどうとらえるのかというところは少し危惧をしており、例えば更地にしないまでも、ホワイエのあたりを使ったりしているかと思うが、そこは残しつつこの場での議論を進めつつ結論を見出していくのかとか。ホールと公民館にあった部分の利用は一旦利用停止みたいな形にしておきながら、公民館はこちらの建屋に機能を移しているのだから公民館はこちらで。ホール機能は、今までの利用率だけで推すつもりはないが安全性を考えて、0.4という耐震性は相当低いと思っているので、万が一何かあった時を考えると、あまりそこはひっぱりたくないというのが正直な気持ちとしては持っている。更地にしてからとか更地にする前にとかいうよりも今持っている会館の機能をどういう形で藤原地域に、例えばこの行政センターをその場として使っていましょというのでも1つの答えかもしれないし、そういった部分を議論していきながら、跡地というか会館についても並行して議論ができれば一番いいのかなと思っている。

部会員2

資料3について、事業手法ということだが、公民連携というのはこれから深くなっていくのか。やる場合には。我々は民間の会社なので、民間活力って民間がお金出してっていうふうに見えるが、お金を出さないで行政がどうグリップしていくのかいまち理解ができない。お金の出し方もいろいろあると思う。元々ある会社が建設にかかる資金を出してやるとか、新しい会社をつくってそこに出資して金融とかいろんなところから資金を調達して建てるか。複雑なお金の出し方があると思うが、行政は何かしらのお金を出しながらグリップしていくということを考えているのか。

事務局

公民連携の手法は、例えば市が建屋をつくって、民間に運営で入ってもらい、これも公民連携、いわゆる指定管理と言われる公設民営の公民連携である。また、軸となる民間企業に銀行とかが入って、1つの会社を立ち上げてその会社が建物をつくって、運営までしていく。もちろん行政機能を持った施設ということになるので、もちろん市が条件を出し、コントロールのところでは市の施設として管理運営していただくことになるので、当然一定のたがを行政の方ではめる。その時に完全に民間の資金だけでつくるというケースもあるし、民間にまずイニシャル部分を出してもらって、例えば10億かかったら毎年1億ずつ平準化して支払いながらやっていくというような手法もある。あとは、土地を定期借地で20年、30年というスパンで貸しながらやっていくというような手法もある。

議事内容

り、公民連携というのは多々種類があるので、どういった施設を整備していくかという議論の中で、やり方は一つではないので、細かく議論をしていくことになると思う。跡地にこういうものがというのが見えてきてからということになろうかと思う。

部会員 3

前回会議が終わって、理事会の中では、わけのわかんないような民間のビジネスホテルができるのであれば、極端な話、文化会館を手を付けずに黄色いテープでも巻いてもらっても、そっちの方がいいやということになっている。説明のように建物自体の危険性があるので壊さなければならないというのであればきちんと納得のいくような説明をしていかないと先ほどの組合に持ち帰っていても賛成と反対と割れてくる部分も出てくると思うので、その辺のところをよろしく願いたい。

上中副市長

ちょっと公民連携についての話をさせてもらうが、市が直営で、どれくらい関与できるかという話は、市の財政上の資力、体力というものを無視できない。そういうものを想定したうえで、市がどこまで直轄工事としてやることができるかとなると自ずと限界が生じてくる。市はそういった限界を超えたところまで踏み込むことはできないから、公民連携、民間の資力を活用することができないかという可能性を探る必要が生じたわけである。それから建物が危険だからあそこに黄色いテープを張って使用禁止にしてしまうとの話は、温泉駅から降りてきた目の前の一等地に果たしてそれでいいのかということかというと、そこは景観の問題もあるので極力避けるべきと考える。一方で建物を壊すとすると壊すにも相当なお金がかかる。仮に壊したとして、そのあとに市が自ら何か新しいものを建てられるかということ、市としてはそこは難しいという部分がある。今後民間が、採算ベースに合わないところに自ら乗り込んでくるかということそこにも非常に疑問もあるが、しかしそこはあくまで可能性を探れるうちは探ってみるべきであると考えている。結果、それが難しいとなった場合、最終的に可能な範囲で何らかの形で市の関与もあるかも知れないが、それはその時の検討ということになると思う。

部会員 5

1点確認だが、この会議は藤原文化会館の跡地ということでの集まりかと思うが、そもそも今市、日光、藤原と3カ所ある文化会館を1つに集約するという方向で進んでいるかと思う。候補地としては今市文化会館のところを改修か、もしくは小さく立て直してということになっているのかと思うが、その際に4～500人くらいのホールというのを聞いていて、今市の地域だとすでにニコニコ本陣のところには300人規模のホールがあるので1kmくらいしか離れていないところに300人のホールと4～500人のホールが同じ地域に2つできてしまう方向で、それは決定している方向なのか。もしくは4～500人のホールを藤原文化会館の跡地に作るという選択肢もあるのか確認させていただきたい。ただそれが、文化会館のホールが地域の賑わいの創出に貢献できる施設になるのかという点については私も疑問があるが、ホールを駅前で作るという選択肢もあるのかお聞かせいただきたい。

事務局

ステップ1、ステップ2ということで、市としての方針、ステップ1が藤原文化会館をまず廃止して、その後日光市として会館をどうしていくか、いっぺんに3つ潰してしまうと当然使うところがなくなってしまうので、耐震化をしている今市を一旦残すという形になっている。市全体の会館をどうするかということについては、以前議会のほうにも説明したところだが、結論が出ているというよりも、庁内の検討ができてるとは言い難い状況である。というのは言い回しがくどくて申し訳ないが、検討に入れていない状況である。ステップ1がある程度見えてきたところでステップ2という考え方で1、2ができあがったところだが、ステップ1が昨年の説明の中からこれだけ時間がかかっているという部分もあるのでステップ2に移行できていないというのが基本的なところ。ただ、議会の中で話をしたのは1が出てから2をやっていたのではどうにもならないので、1にあわせて今年度2を進めるための庁内の検討組織を立ち上げるのでそれで並行してやらせてほしいという話を議会の中でも説明させていただいている。こちらの体制の問題もあり、庁内の体制のところはまだ立ち上げられていないというところが正直なところある。が、1が終わってから2ではなくて2つ同時並行で進めましょうということになっている。したがって、今市の会館を規模を小さくしてとか、あの場所につくってとか、そういう結論は一切出ていない。可能性としてあそこの場所に今市の会館を改修して

議事内容

使うというのにも可能性としてはある。あとは、壊してあそこに建て直すという方法も1つある。あとは、壊して、まったく新しい場所につくるという方法もある。大きく分けるとこの3つというのは方法論として見えている部分ではあるが、それが何か決まったかというところは何1つ決まっていな。今意見としてあった、確かにニコニコ本陣が近い中で、同じような規模のホール機能が果たして必要なかというの今後の議論の中では当然出てくる話なのかなという理解はしているが、まず1つ誤解を解いておきたいのは、その議論は、そういった結論には一切なっていないし、これから庁内の中では並行して検討していきたい。あと、駅前にホール機能がありかというの、ありかなしでいえばもちろんありではある。もちろんそれは皆さんの議論の中で、そういう意見が出てきて、かつどの程度のものかというところで公民連携なり市の直営、市の直営というのは中々難しいかもしれないが、公民連携の中でどの程度可能かということもあろうかと思うし、規模にもよるかもしれないし、それを今後の議論の中で、公民連携も含めて検討していく事項かなと思っているので、最初からあそこにホール機能がありです、なしですという考え方は一切持っていないので、そこは白紙の状態ということ。

部会員 2

組合の考え方はある程度決まってきた。サウンディング調査を見ると割りとは観光とか商業施設になるようなイメージになっているが、我々としてはそんなことより大切なのは、元々ある文化会館の生涯学習、考え方であったり、それに伴う機能、施設、そういうことのほうが賑わいとかイベントの前にこの地域の人にとって大切だと思っている。そのことをなくして、賑わいとか何とかというのは我々は求めていないので、きちんと文化会館の考え方、それに連動するもの、将来の人口の見込みにあわせてきちんとそういうものはこの地域には残していくべきではないのかと思っている。あえて言うておくがビジネスホテルは反対である。反対の理由としては、我々旅館組合だが、我々のほかに新興旅館組合というのがあって、大きな旅館だけでなく家族だけでやっている旅館もしくはそれよりちょっと毛の生えたようなところもあって、そこで商売をやりながら今暮らしている人たちがいるわけなので、行政が絡んだ公共施設マネジメントということでビジネスホテルとは言っても実際は観光客がメインなんだと思う。そういう人たちが出てくることによって今住んでる地域の方が商売をやめたりとかそうなることは我々としては認めることはできないと思っている。売店もそう。こういうところはきちんと、ほんとに地場で根を張って生活している人の声は吸い上げてもらいたいという風に考えている。

事務局

そういったところも含めてそれぞれ各団体に持ち帰っていただいて、持ち寄っていただく際にそういった話もいただけるのかなと期待しているところである。現時点で委員の意見として承っておきたい。

上中副市長

サウンディングによる提案内容という資料については、この内容をベースにしてこの内容に対しての考え方をいただくというのではなく、これはあくまで提案、アイデアなので、これに対して認められないというのであればそう書いていただいてもいいと思うし、決してこれにこだわる必要はない。ほかに市民の方、観光のプロの方の目線で提案があるのであれば、そういったことを書いていただければと考えているので、あくまでもサウンディングの内容ありきではないということだけのご理解していただければと思う。

部会員 2

そもそもこの話で、我々旅館として、新聞にも出たが、代替施設として旅館はどうなんだということで、去年の7月か9月くらいだったか、副市長から話が出て、我々財政が苦しいんじゃない協力できることはしたいという話はしたが、きちんと住民目線に立って11月の地域説明会では同時並行で進めるといつてしまっているわけだからあれから何も無い。何もしてないし実際、何の話もないし。そういうところはきちんと進めてかないとまた後で炎上することになるんじゃないかなと思う。我々最初から言うておくが、我々の商売は相容れないところがあって、我々は旅館業をやっているが、栃木県の公安委員会というところから風俗営業の許可をいただいている。大体旅館組合は1号か2号だが、1号というのはホストクラブ、キャバレー、料理店、2号というのはその中でも建物の中が暗いところ、我々は2号とか1号なりというところで許可を得ているが、風俗営業は学校とか病院とかか

議事内容

らある一定の距離を置かなければならないし、学生が来て酔っ払いが裸になったとかというのではまずいので、すべてが我々で代替できるものではない。我々もそういうものを受け入れると余計ややこしくなるし、そこだけは覚えておいてもらいたい。特に利用実績を見ると藤中の音楽祭の練習とかこの地域の文化祭とかある。お金に代えられない大切さというのか、中学生なんかは受け入れられない。そこだけはわかっていただきたい。

部会長

全国の旅館組合の中でも風俗営業に対しての批判というのか旅館で風俗営業を行わなくちゃいけないというのは時代とともにあってないのではないかという話が出ていて、いろんな地域で起こっているのが事実である。

部会員 1

駅前ロータリーのほうから1つご提案をしたいが、文化会館の跡地利用ということで今会議をしていただいているが、例えばさくら祭りをやるときに駅前の野外ステージを使わせてもらっているが、雨になったときのために文化会館を借りている。文化会館がなくなってしまうとそういうのが困ってしまうので、当てはまるかどうかわからないが、野外ステージのところちょっと屋根をかけてもらえるようなことも拡大的に考えていただけるとありがたい。

上中副市長

可能性、アイデアとして委員から出していただいたのもありだと思っている。例えば、文化会館が老朽化でさすがに維持することは難しいとして、でも駅前の景観をアップするためには、あれを老朽化したまま放置しておくことができなかつたときに、仮にあそこがイベント広場の拡張の場として存在するとなると、そこに簡単な雨よけで屋根をつけて、イベント広場の第2会場というか、そういう発想も提案としてあるのであれば出していただいていると思う。それを市が直接整備することができるかどうかというのは、財政とも相談ということになるが、考え方としては十分ありだと思っている。

部会長

ほかにありますか。アドバイザーの先生いかがでしょうか。

山本アドバイザー

財政的に市のほうが厳しいということで、ただあの場所は非常にポテンシャルが高い地域ということで、サウンディングで提案を受けたときに民間事業者が魅力あるものとしてある程度自分たちのメリットだけを出したというところがある。ただその中で先ほど話があったように、公共側としてのある程度の条件を出せば、どこかで折り合いがつく。後は逆にこれだけはやめてほしいというのは、意見を集約するべきだ。同時に、今後5年先、10年先、20年先、あの場所がどうあるべきかということも考えていっていただければと思う。

西尾アドバイザー

話を聞いていて、若干話の掛け違いが出てしまったのかなと思ったのは、本来はこういうことにしたいという皆さんの思いとか、イメージというのがあって、ただしそれを実現するためには財政的には非常に厳しいので、それをクリアするためにこういう手法が有効ですよという順番で議論していくはずなのが、先に手法の話が出てきてしまったので、民間から提案があるのはわかるが、地域の思いとは違うというのが最初に出てしまったのかなという気がする。これはあくまでも、民間からの提案としてのアイデアでしかないもので、市としてやりたいことではない。これにこだわらず提案してくださいというのが副市長からもあったが、まずは地域としてどうしたいのかっていうところをこれに限らず出していくというのが大事ではないかと思う。また話のあった広場の部分とか、図書館の部分とか少し拡大的に捉えてもいいんだよということもあったかと思うので、そういった中で、地域としての思いというのを次回までに出してもらえればいいと思うので、それが出てくれば、それを厳しい財政の中でどういうふうを実現すればいいのかということで、公民連携の在り方ももう少し精度の高い検討に入っていけると思うので、まずはそこからやって行けるといいのかなと。私はこの話というのは、市はもちろん財政的に厳しいのでやれることというのは限られてくるかもしれないが、基本的には地域の皆さんももっといい地域にしたいという思いだし、市ももっといい地域にするためにやって

議事内容

行きたい。対立関係ではなくて、同じ方向を見て協力しながらやって行くことではないかと思うので、方向性が見えてくるといいなと思う。

部会長

ありがとうございます。それでは、他に質問もないようですので、次に「(4) その他」について皆様から何かございますか。ないようですので、事務局にお返しします。

事務局

会議を閉じる前に2点お願いしたい。まず1点は、一番最初の説明の中で、9月末とか、11月末とか、できれば一度どこかのタイミングをこの場で決めさせていただきたいというのが1つ。それとどういった形で、皆さんから意見をいただいて、それをお示しすることになるかと思うが、例えばフリーで皆さんでここに持ち寄って話をしても、資料がばらばらな形であったり、資料がなかったりということもあろうかと思うので、一度何らかの形で事務局のほうで様式か何かをお示しして、それで出していただいて、それをまとめて議論するという形がいいのかなと思っているが、実は、日光の方で委員全員からいろいろ意見をもらいそれをまとめたが、まとめるのにかなりの時間がかかった。ものすごく意見が出たということもあるが、締め切りを過ぎてから提出される方もいたということもあって、5日もかけられなかった状況になってしまったので、今回のケースで言うのであれば少しまとめる時間を余裕を持っていただければということも踏まえて、次回、皆様のところで、私どもの方が説明に行ったりということも必要に応じて呼んでいただければ当然行きますから、その期間も含めますといつごろがよろしいか。9月末だとちょっと早いか。そこからハイシーズンになってしまうということも含めて、一度その時点での途中のということにも場合によってになってしまうかもしれないが、できればある程度まとまった形でということで、11月末のどこかで1度設定したいがいかか。毎月1回ということで、会長の予定なんかも押さえさせていただいているが、11月くらいで少し時間が空きすぎかという感じもするが、持ち帰ったところでの丁寧な議論とか、まとめる時間とか、例えば11月末に開催するにしても書類は11月の月上旬までをお願いしたいとかということになる。その辺で一度整理をさせていただきたいが、異論がなければ一度11月末ということでよろしいか。

～異論がない旨の声あり～

事務局

日にちは改めて設定させていただく。会長とも相談の上、11月末の開催を目途に11月上旬までにご意見をこちらが集約できるように、様式等こちらで検討させていただいて、皆様のところにお送りしたい。

部会長

一度各団体に振って、まとまったものをまとめてそれを戻すということか。それともそれをもって会議を開くということか。

事務局

今のところ考えているのは、それぞれ皆さんの団体から11月上旬に事務局の方に意見として提出していただいて、出た意見を市で資料としてまとめて11月下旬のところで皆様から出た意見はこういう形だがどういたしましょうかというところで議論ができればいいかなと考えている。

部会員 6

それは、第4回の会議ということで考えていいか。

事務局

今回第3回なので、次の第4回と考えていただきたい。

部会員 7

私と部会員1は同じ町内で同じグループで同じメンバーに入っている。私たち二人の会は、同じ席

議事内容

について同じ検討をして説明させていただきたいが構わないか。

事務局

結構です。提出していただく単位は皆様の都合に合わせていただいて構わない。

部会員 8

私は、推薦で来ているが、公共施設適正化推進市民委員会のメンバーでもなく、一人できている。言いたいことはあるが、バックグラウンドがないので、何の代表で来ているかというとても不安で意見を言いたくても言えない感じだが、それでもよろしいのか。市民の代表では申し訳ないので、市民の極々一人の意見として、今後は手を上げさせていただいてよろしいのか。

部会員 2

そういう意見も聞きたいと思っている。

事務局

部会員 2 のおっしゃるとおり、もちろん部会員 8 には個々に携わっていただいているというのは重々承知の上なので、一市民としてご発言いただければそれでよろしいかと思う。

それでは、ほかにごいませんので、これをもちまして、第 3 回藤原総合文化会館検討専門部会を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

15 : 15 閉会